

オミクロン株による感染急拡大 を踏まえた今後の対応の全体像 ～重症化予防の徹底～

令和4年2月3日

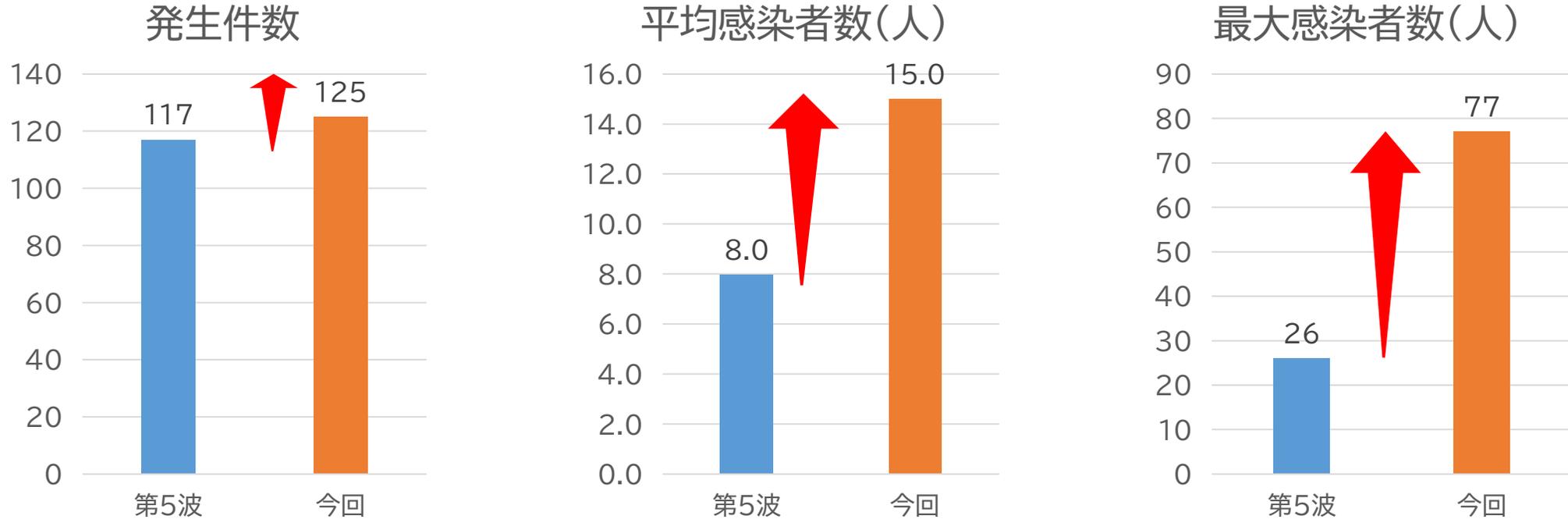
本日の内容

1. オミクロン株の特徴と対応の方向性
2. 直近の感染状況とまん延防止等重点措置の効果
3. 減少局面転換に向けた課題と対応
4. 重症化予防の取組
5. 県民の皆様へのお願い

1. オミクロン株の特徴と対応の方向性

従来株と比較した場合の感染伝播力が高い

第5波とクラスター発生状況を比較



第5波:R3.7.1~10.31に公表されたものを対象として集計
 今回:R3.12.22~R4.1.31に公表されたものを対象として集計

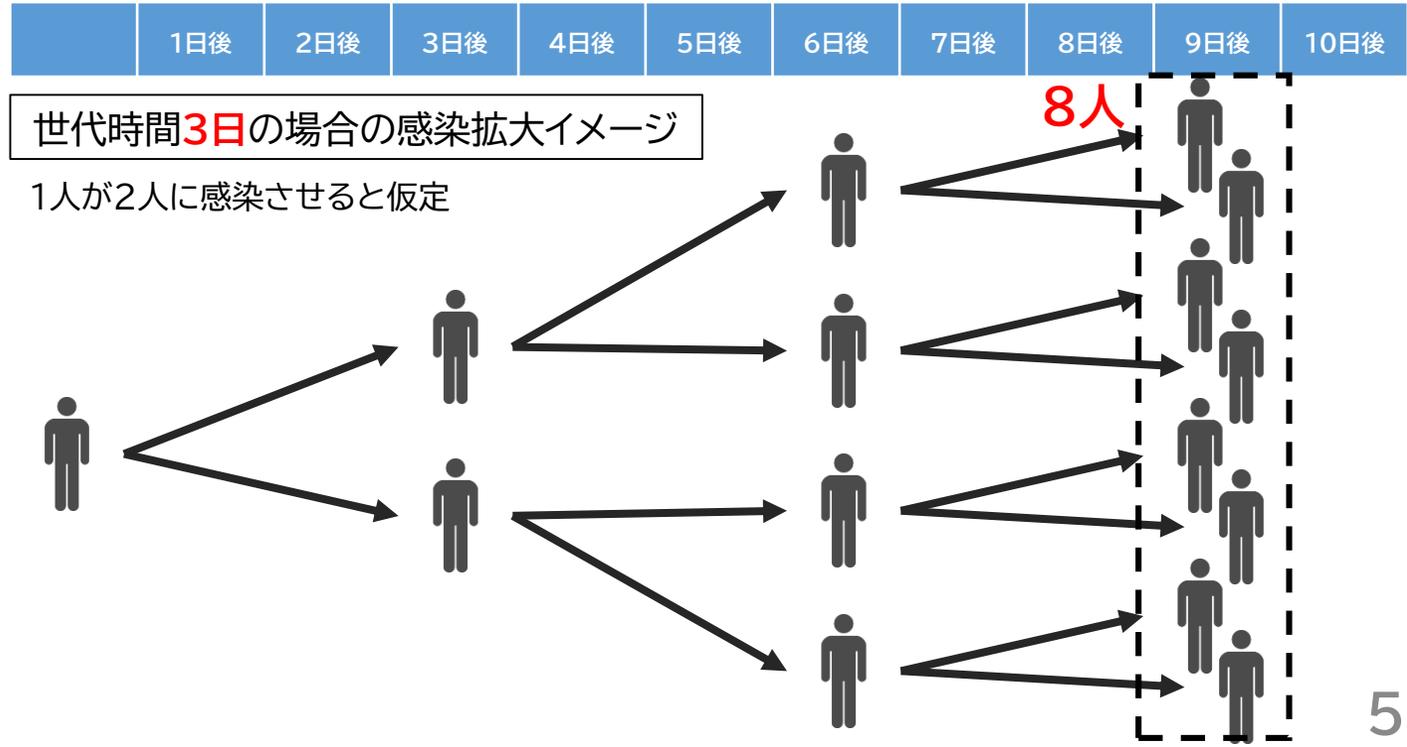
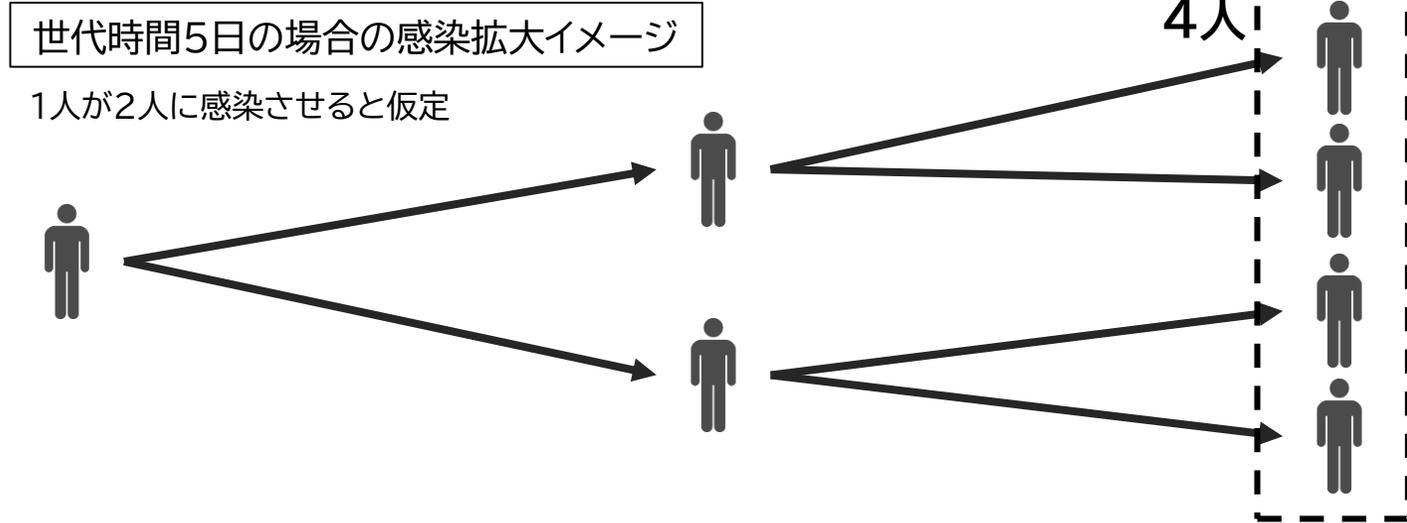
感染伝播力が高いことが示唆

さらに、感染伝播力に係る不安要素も新たに確認されている

- ①直近ではオミクロン株の別系統が確認
- ②オミクロン株の人体外での従来株よりも長期での生存の報告

感染してから感染力をもつまでの時間が極めて短い

- ◆潜伏期間が約3日で，従来の5日より**短い**。
- ◆感染翌日には感染力をもつと考えられ，感染拡大スピードに大きく寄与している。



ワクチン接種(2回までの接種)の感染予防効果が従来ほど期待できない

※10代以上の接種率(10/31時点)

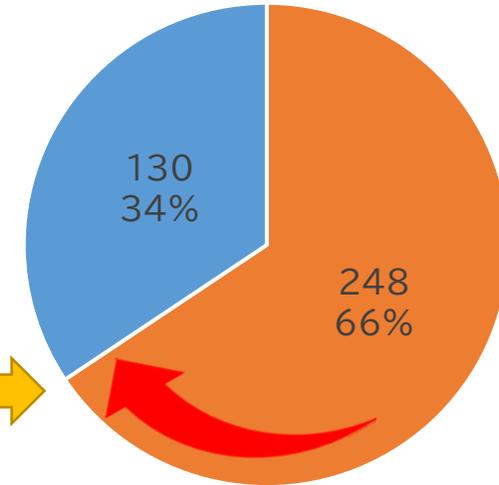
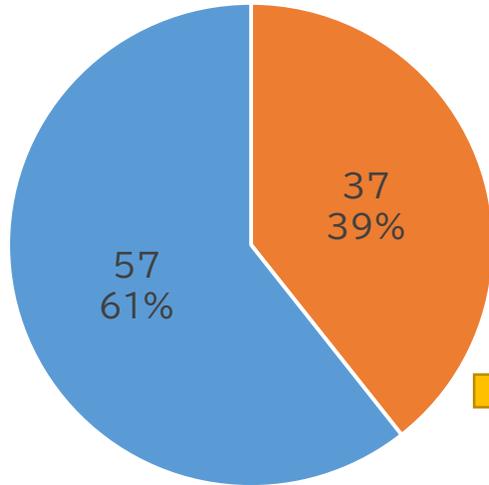
1回目 82.0%
2回目 79.3%

※10代以上の接種率(12/21時点)

1回目 83.4%
2回目 82.6%

感染者に占めるワクチン接種割合(11/1~11/30)
(10代以上を対象として集計)

感染者に占めるワクチン接種割合(12/22~1/5)
(10代以上を対象として集計)



■ ワクチン接種(10代以上) ■ ワクチン未接種(10代以上)

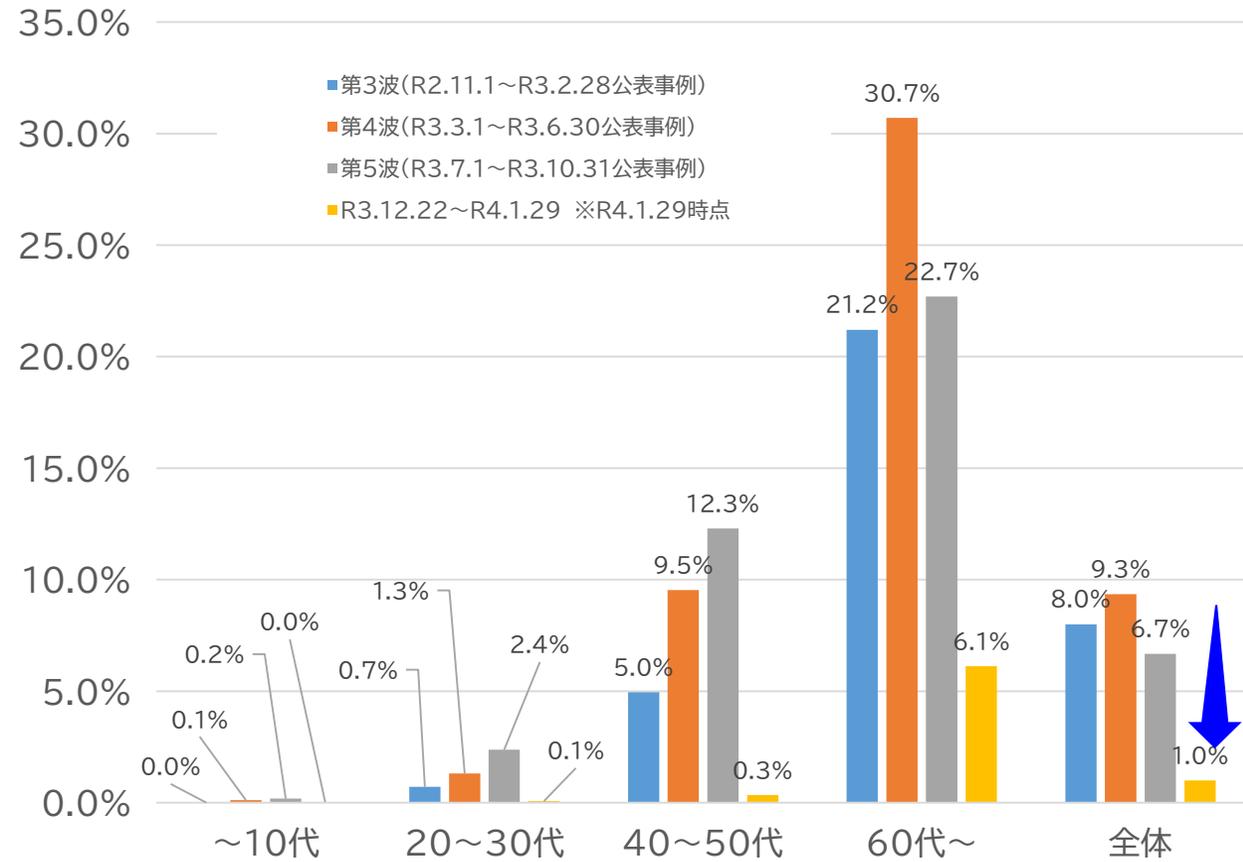
■ ワクチン接種(10代以上) ■ ワクチン未接種(10代以上)

ワクチン接種:1回以上接種した者(接種後経過日数等は問わない)

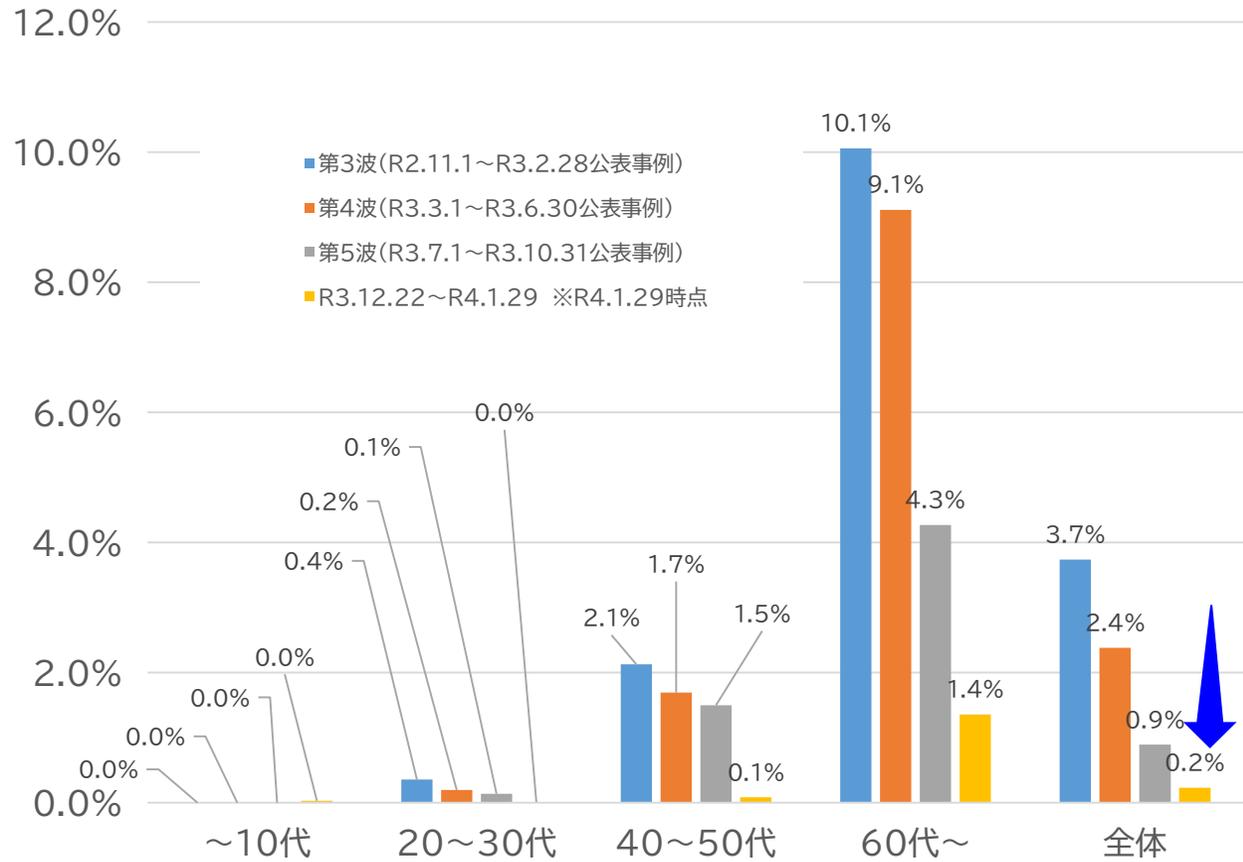
住民全体の接種率は大きく変化していないにも関わらず
感染者に占めるワクチン接種者の割合は上昇

中等症化率や重症化率が著しく低い

中等症Ⅱ以上



重症以上



今回の感染拡大のデータ: R3.12.22~R4.1.29公表患者のR4.1.29時点のステータスを反映して作成 (最も重篤な状態等を踏まえ集計。デルタ株の患者を含む。年代不明例は除外して集計。)

特徴を踏まえた対策の方向性

従来株と比較した場合の感染伝播力が高い

感染してから感染力をもつまでの時間が極めて短い

従来より強い感染防止対策, 接触削減が必要

◆基本的感染対策の強化

◆接触を削減するための全体の人流削減

◆感染の連鎖を止めるという意味での積極的疫学調査の意義は薄れている

◆保健所の業務の重点を積極的疫学調査から, 特にハイリスクな患者への対応にシフト

特徴を踏まえた対策の方向性

ワクチン接種(2回までの接種)の感染予防効果が従来ほど期待できない

- ◆感染拡大防止のためにはワクチン・検査パッケージは停止が必要
- ◆検査陰性の活用も, 必要な検査を圧迫する恐れがあるので, 活用は適切ではない
- ◆重症化予防のために3回目接種を推進

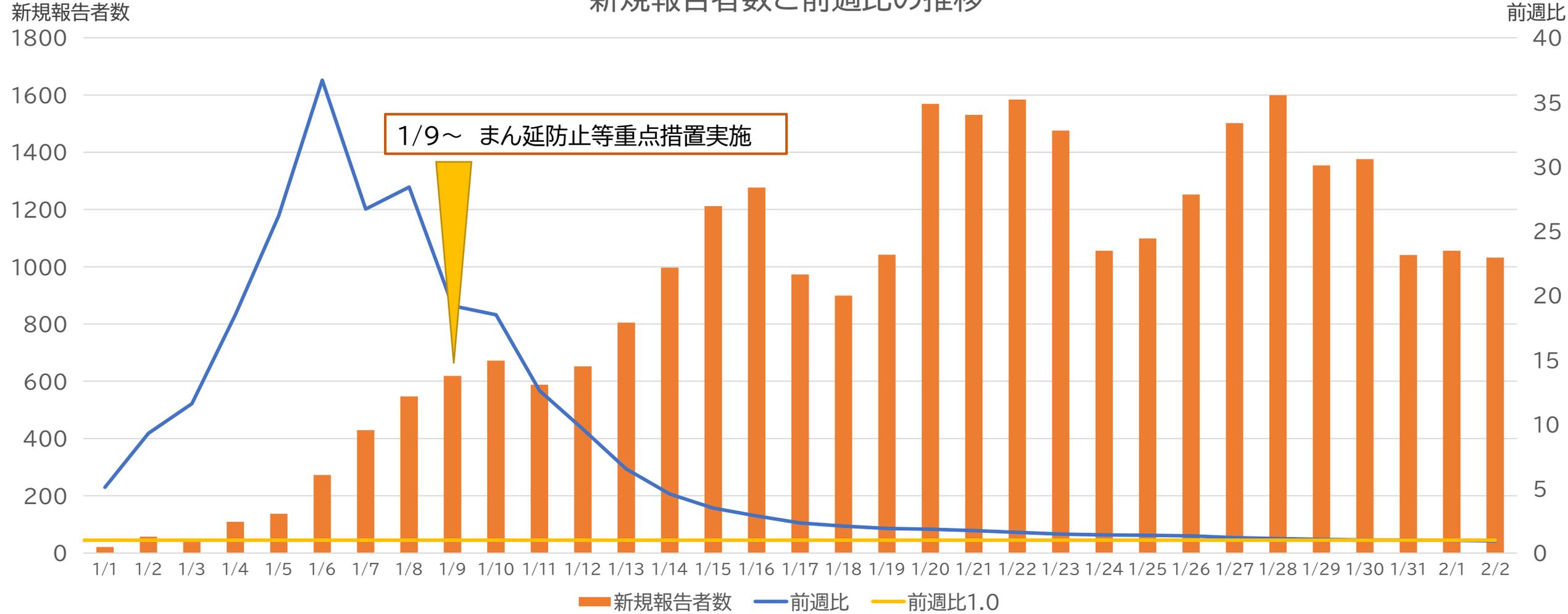
中等症化率や重症化率が著しく低い

- ◆病床への負荷はこれまでよりも軽減されるため, これまでよりも高い感染水準であっても強い対策の解除は可能と見込む
- ◆再拡大しない水準, 再拡大を防ぐ方法等について議論が必要

2. 直近の感染状況とまん延防止等重点措置の効果

直近の感染状況

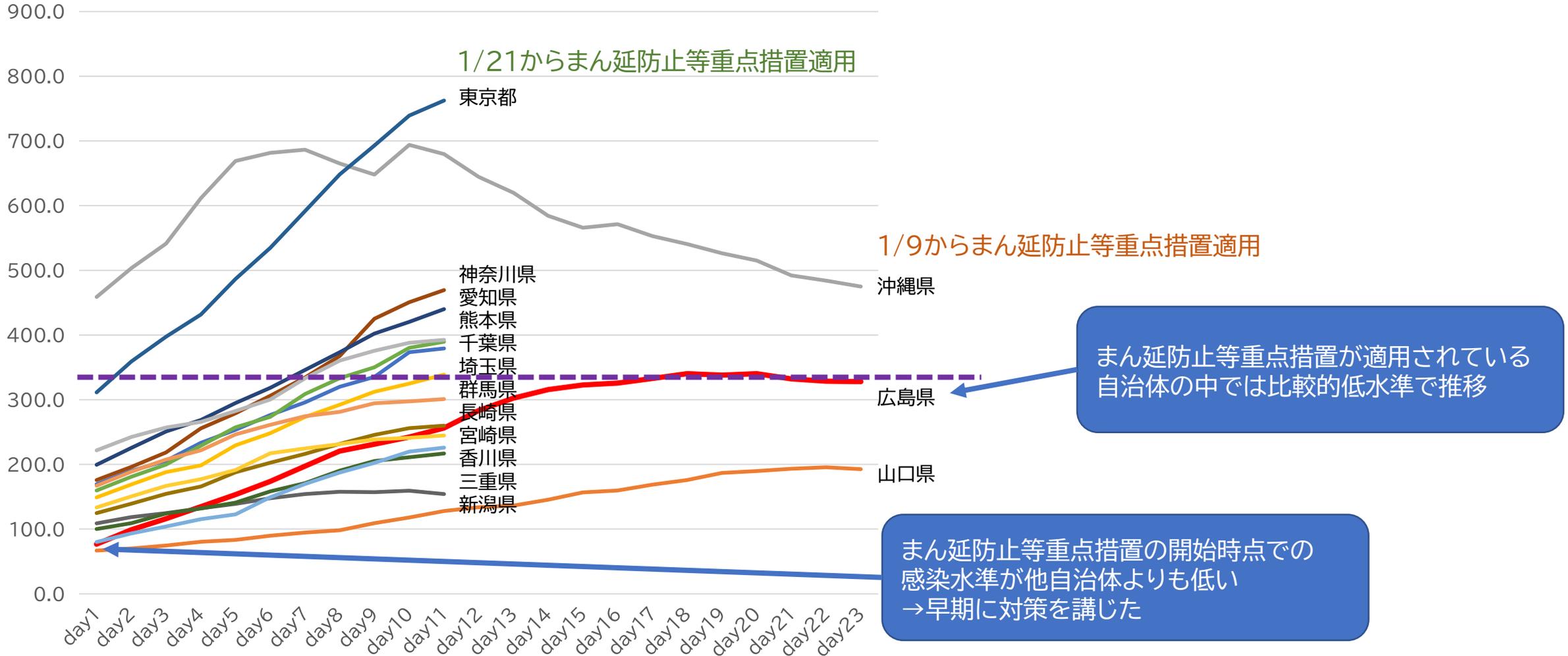
新規報告者数と前週比の推移



前週比1.0付近で推移 急拡大傾向は回避し高止まりの状態

全国の感染状況

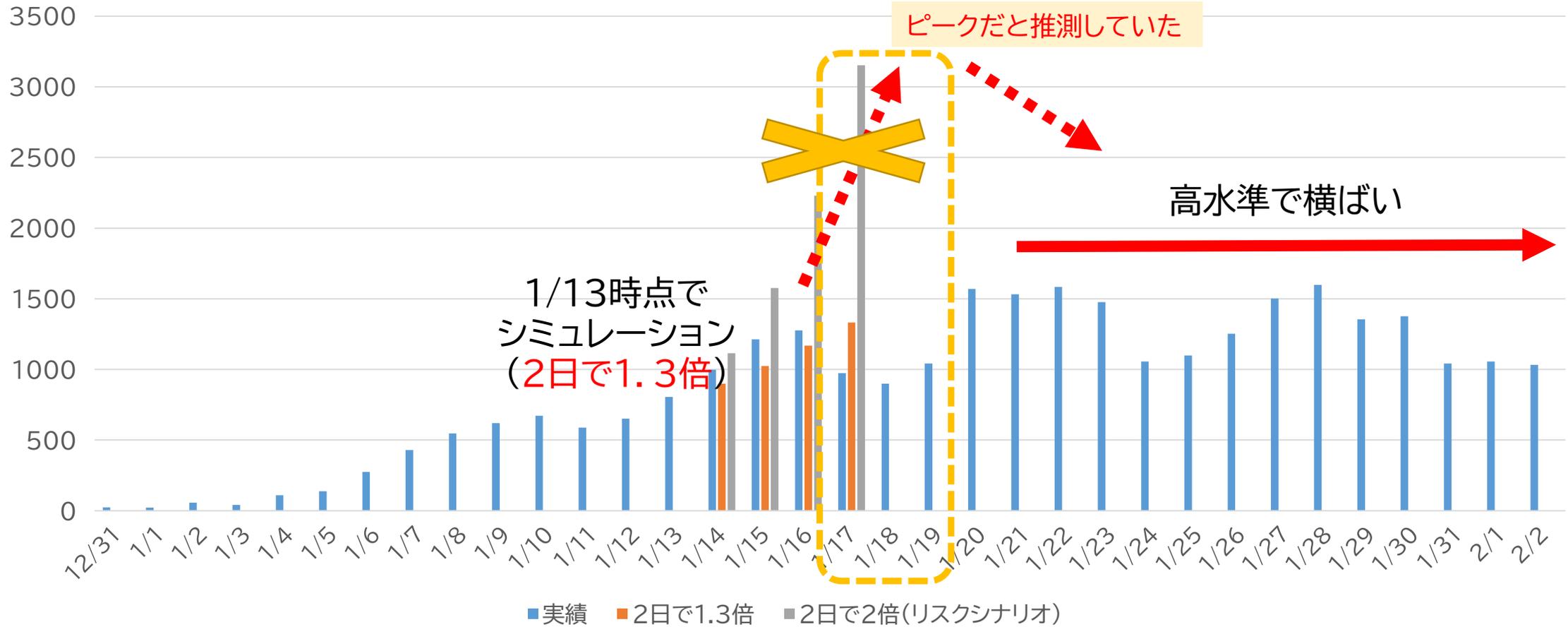
直近1週間の人口10万人あたりの新規報告者数の推移比較
(まん延防止等重点措置開始日をday1として整理_R4. 1. 31時点)



早期に対策を実施したことで、急拡大に歯止めがかかりつつある

直近の感染状況(シミュレーションと実測値)

新規報告者数シミュレーション(1/13時点で作成)

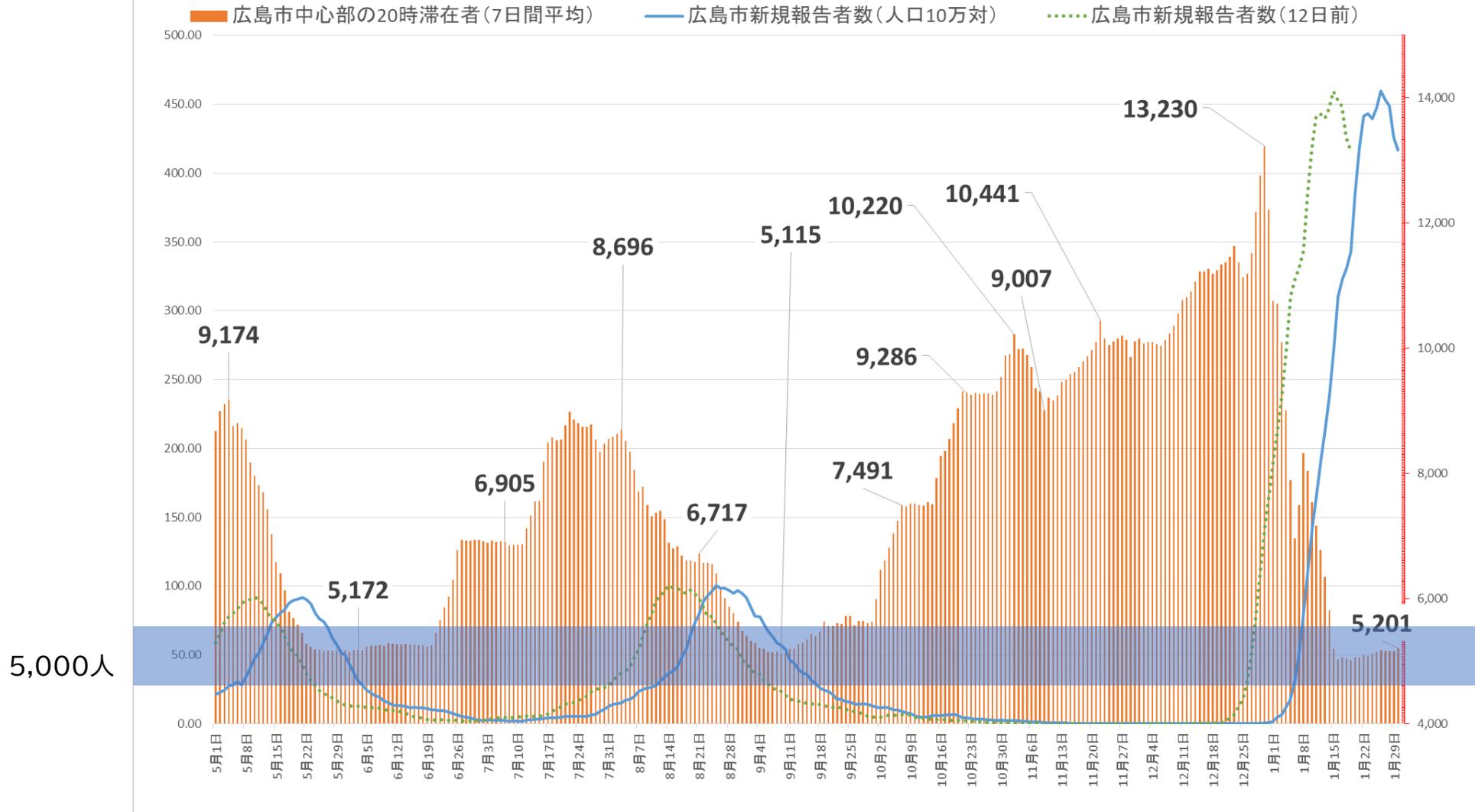


※まん延防止等重点措置の適用日から実際には減少しているとして算出

リスクシナリオよりも低く推移。感染は横ばい状態。
想定していたピークアウトには至っていない。

対策実施による人出の減少(広島市中心部 夜間)

広島市中心部の20時の滞在者と広島市の感染状況

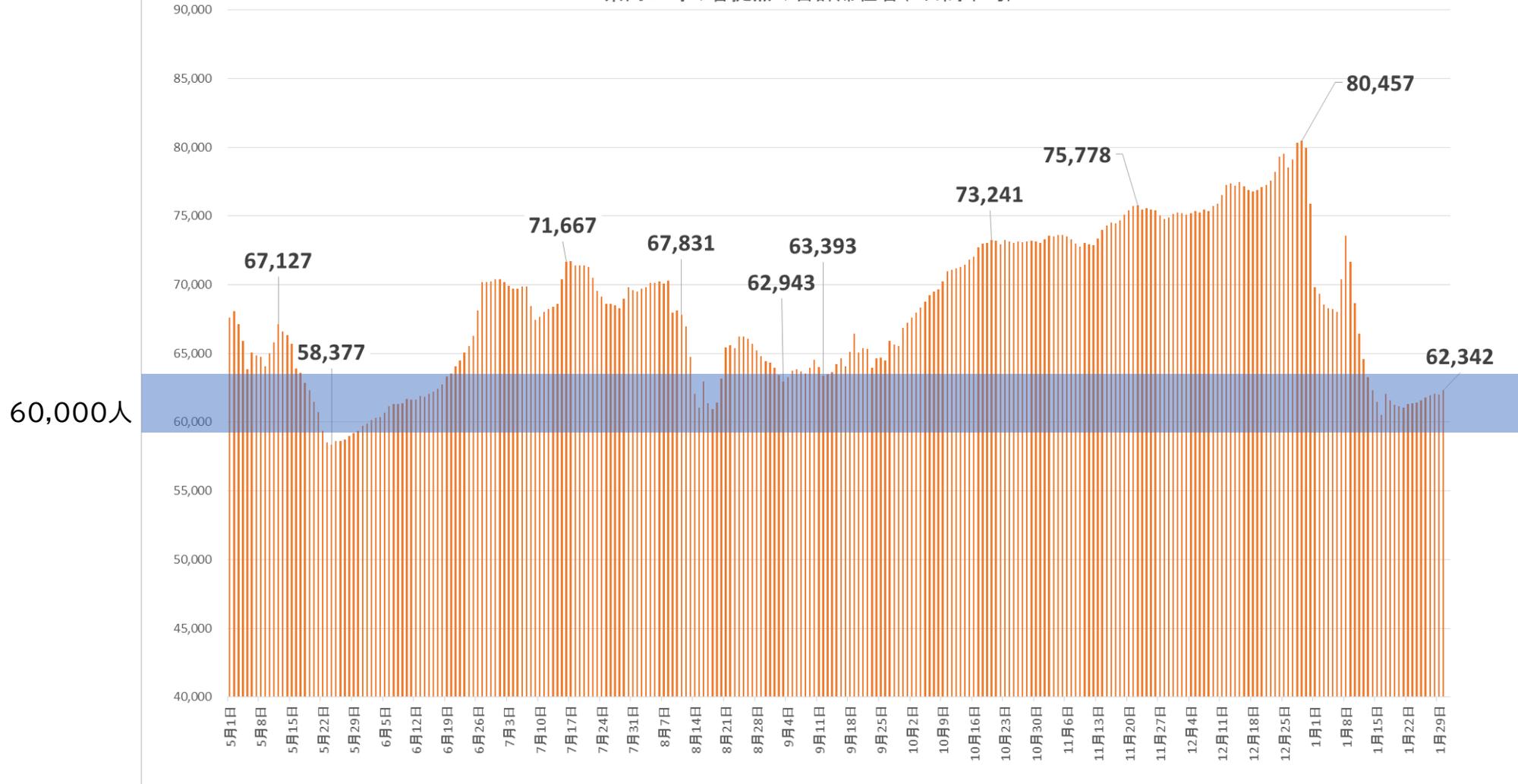


対策実施により、過去の緊急事態宣言時並みに人出を削減することができた

対策実施による人出の減少(県内全体 昼間)

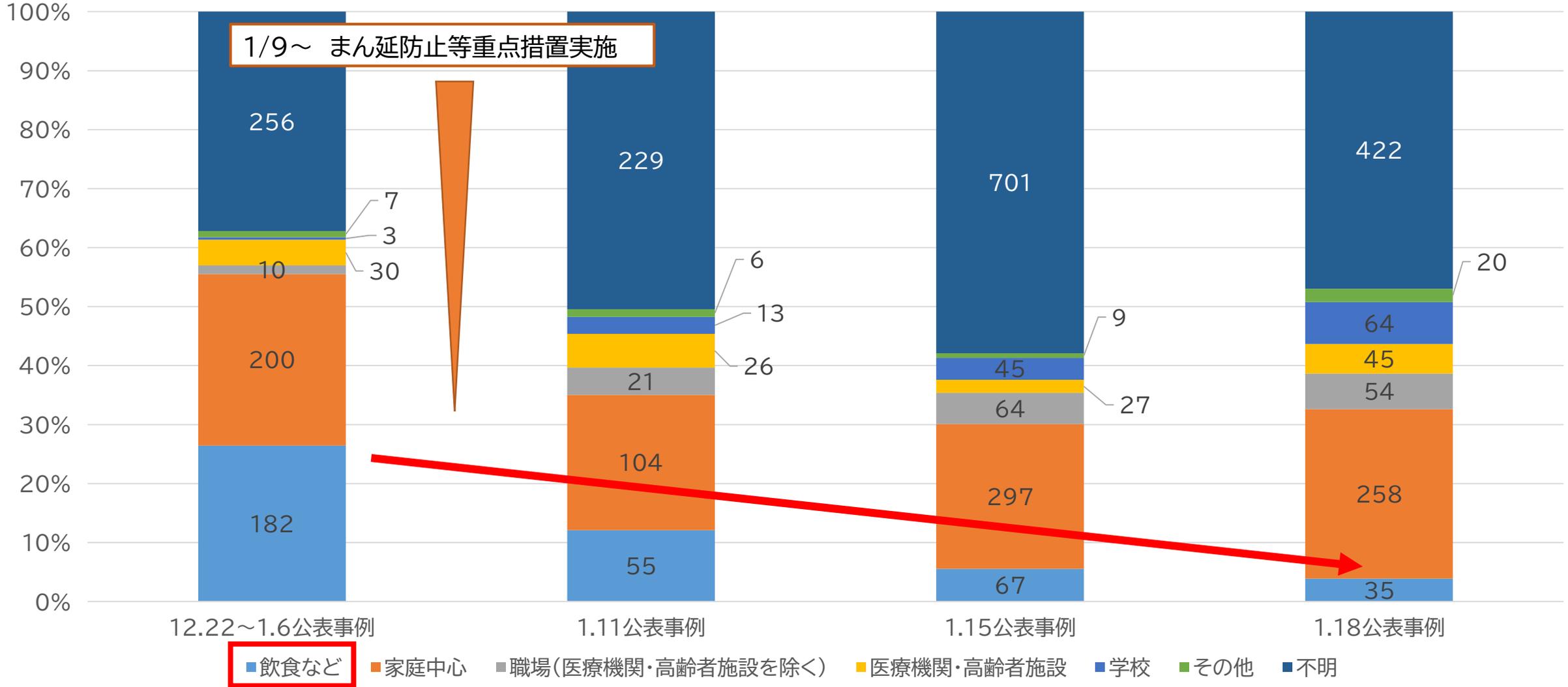
県内各拠点14時の滞在者合計

■ 県内14時の各拠点の合計滞在者(7日間平均)



対策実施により、過去の緊急事態宣言時並みに人出を削減することができた

対策実施の効果



対策実施により、拡大初期に見られた飲食由来の感染を減少させることができた

まん延防止等重点措置の検証

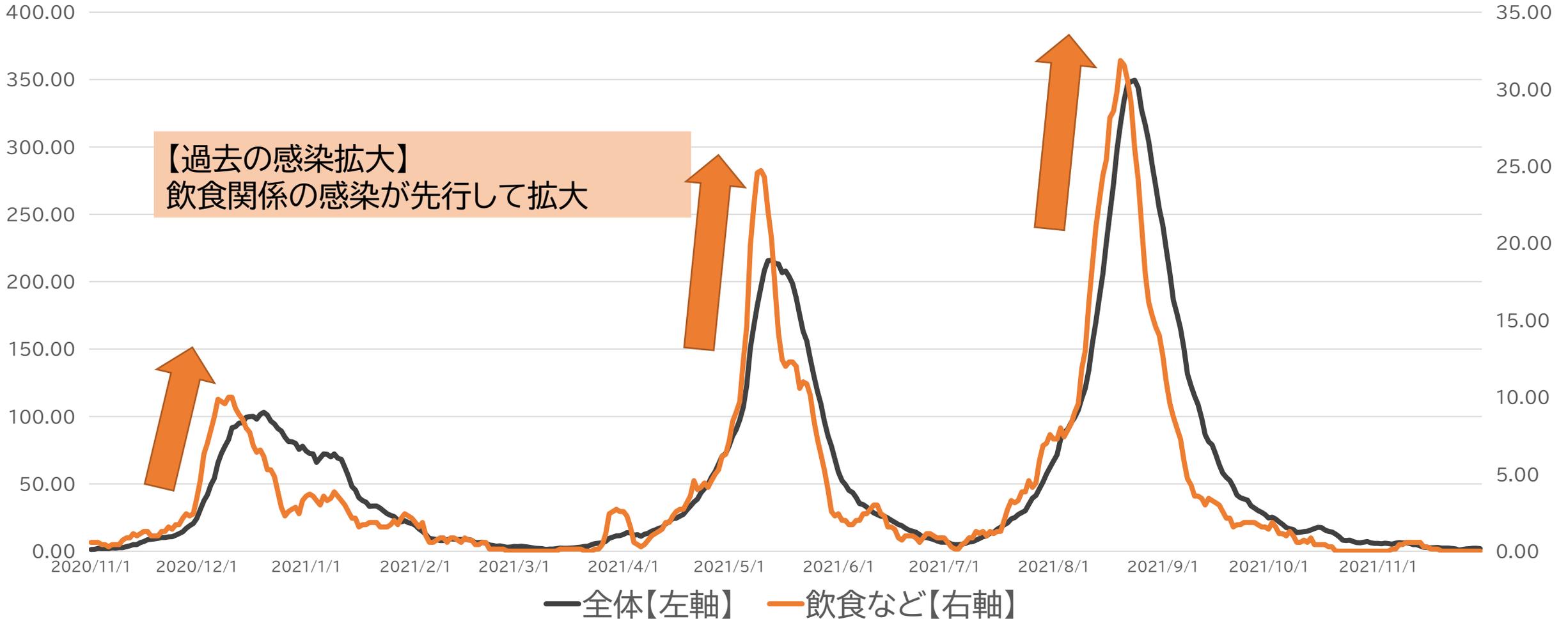
- 夜間と昼間の人出が過去の緊急事態宣言レベルまで減少
- 早期に対策を始めた結果, 他自治体の感染の伸びが収まらない中, 本県は高止まりの状態
- 「まん延防止等重点措置の効果はある」と認識
- 一方で, オミクロン株の感染伝播力が非常に高く, 減少局面には転じていない
- 他自治体の感染が高まっており, 県外から持ち込まれるリスクは上昇

減少局面に転じるために, 現在の対策を続けながら
現在の感染状況に応じた対策を実施

3. 減少局面に向けた課題と対応

再拡大を防ぐために

推定感染経路ごとの発症日別感染者数(7日移動平均)

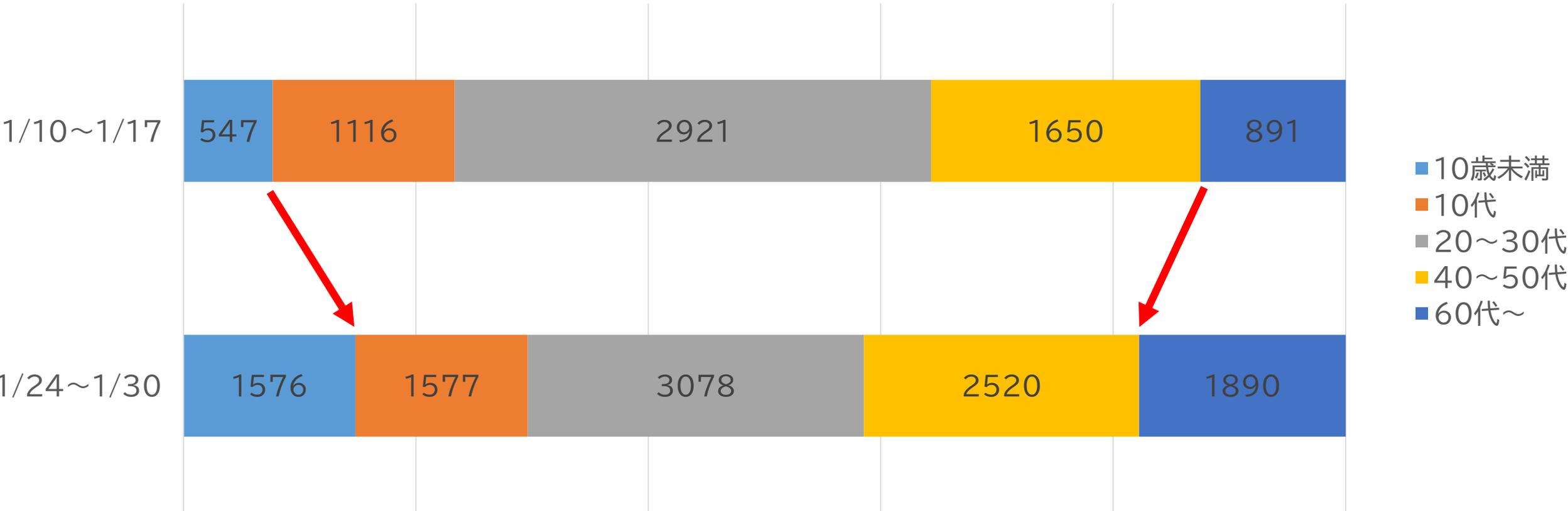


対策継続により, 再拡大を防ぐ必要がある

今後の対策のターゲット(年代)

年代構成

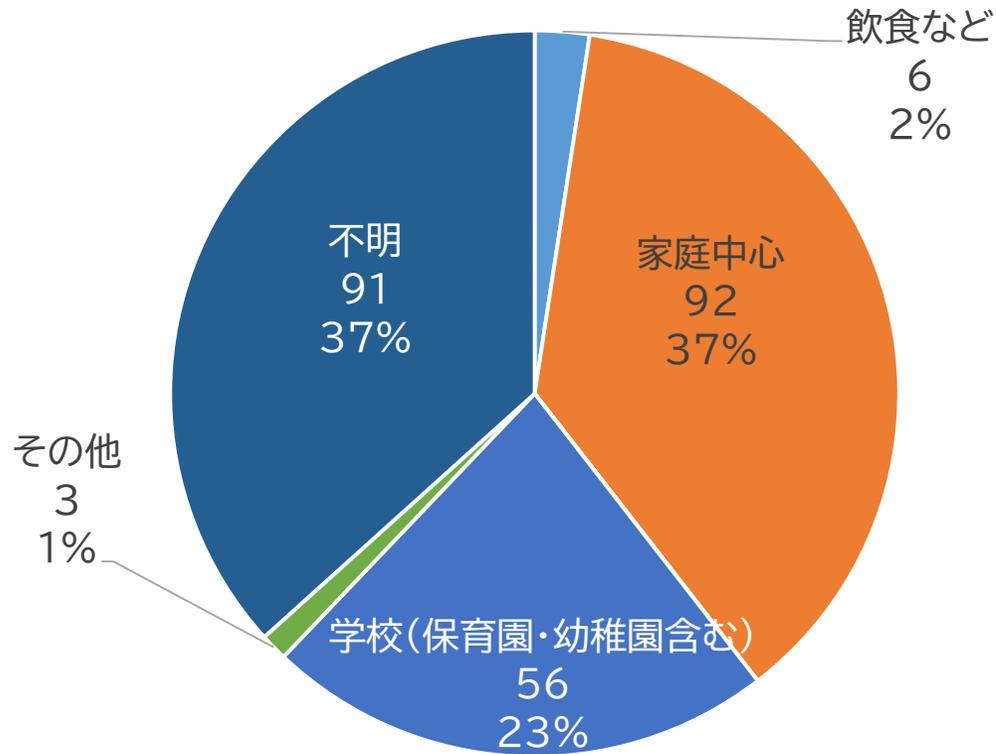
0% 20% 40% 60% 80% 100%



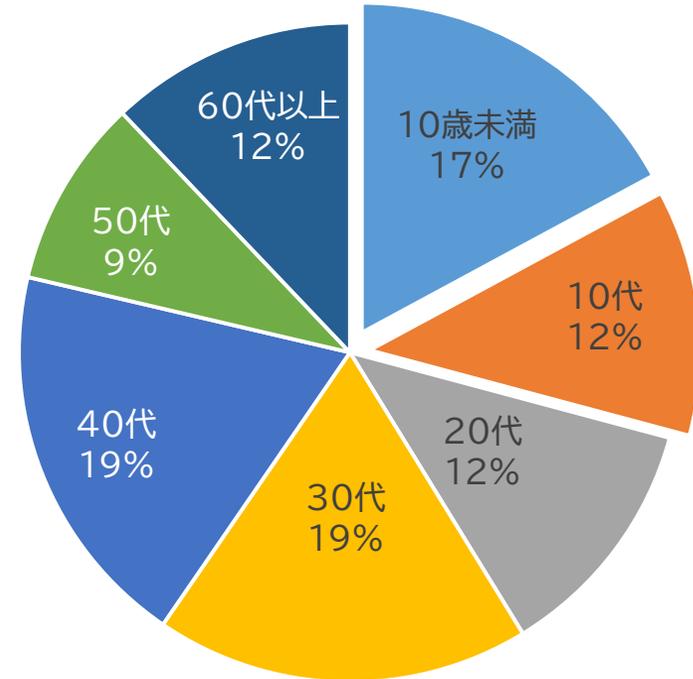
若年層(特に10歳未満)と高齢層(60代以上)において感染拡大

若年層の感染分析

R4.1.18公表事例_10代以下_推定感染経路



家庭内の感染において、感染を持ち込んだ疑いの強い者の年代構成



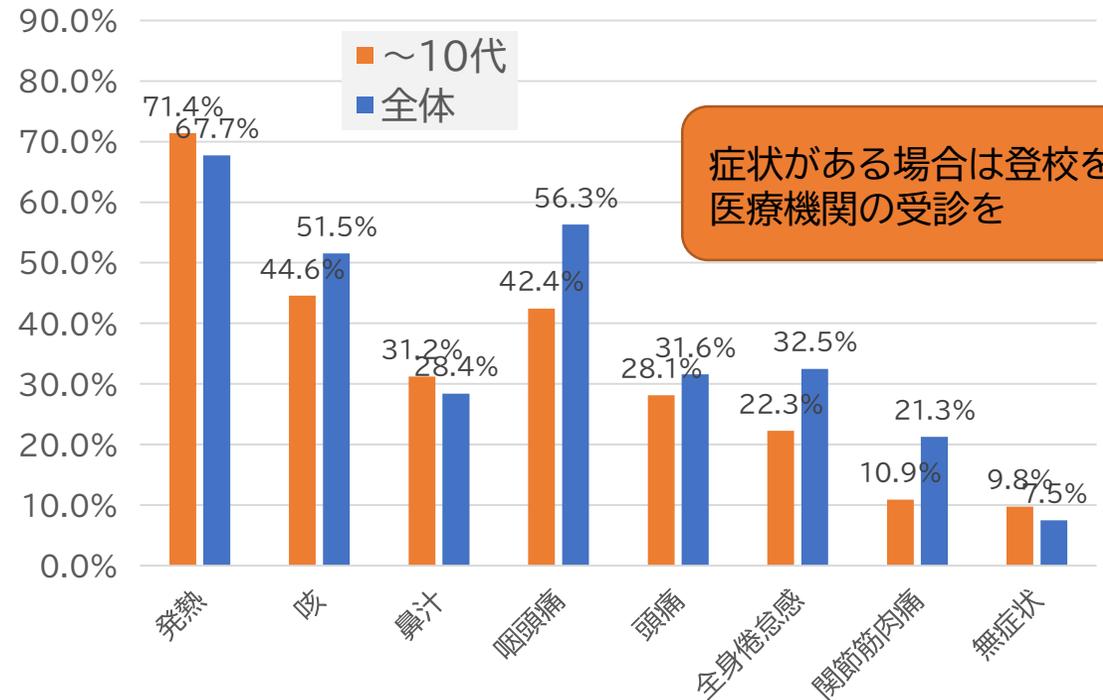
1/18~1/29の期間で県が公表した事例について整理
 家庭内感染事例について、最も発症日が早い者を家庭内に感染を持ち込んだ疑いが強い者とし、その年代構成について整理した(速報値)

**若年層において、学校での感染が一定程度見られる。
 学校での感染がその後家庭に持ち込まれ、全体の感染規模が維持されているケースも疑われる。**

今一度、基本的な対策の**徹底**を図る

- ◆換気
- ◆正しいマスクの着用
- ◆食事の場面での行動

年代別症状保有割合

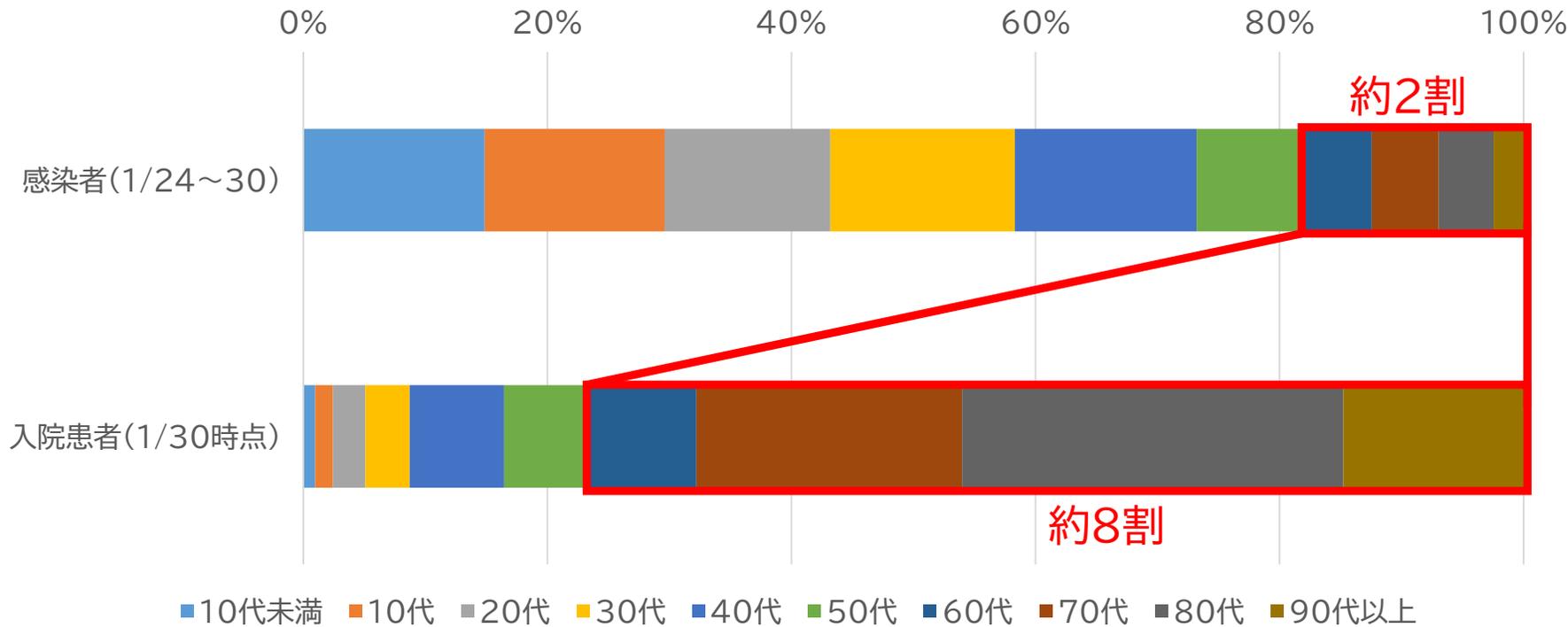


症状がある場合は登校を控え
医療機関の受診を

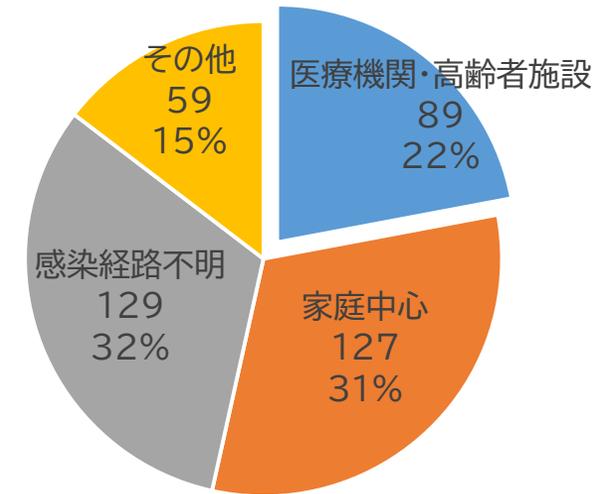
1/11, 1/15, 1/18の公表事例のうち、疫学調査情報のデータ化が可能だったものを元に整理(症状は疫学調査情報に基づくもの)

学校ごとの点検を実施

高齢層の感染分析



60代以上の感染者の推定感染経路



1/18~1/27の期間で県が公表した事例について整理(速報値)

全感染者に占める60代以上の割合は**約2割**

入院患者に占める60代以上の割合は**約8割**

適切に医療を提供していくためにも、高齢者の感染対策が重要となる

高齢層の感染においては、**医療機関・高齢者施設での感染が特徴的**

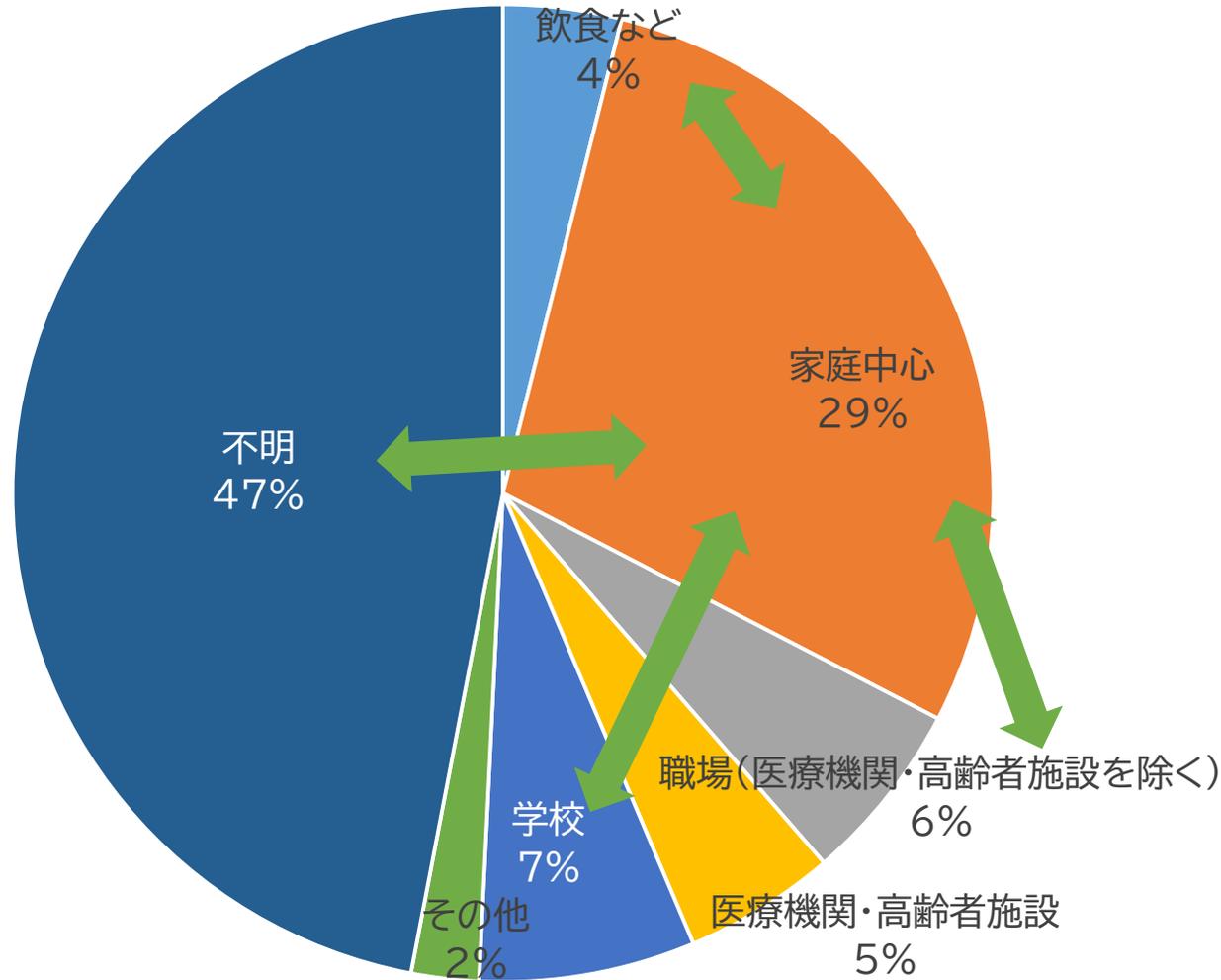
医療機関・高齢者施設における感染対策

検査：医療機関・介護施設の定期検査，有症状者の検査優先

- クラスタ発生を防止するため，医療機関・介護施設の定期検査を実施
- 医療機関での有症状者の検査は，抗原定性検査キットを使用して，
早期の診断，投薬につなげる
- 県内PCRセンターの設置場所増設や時間延長により，可能な限り，
無症状者への検査にも対応。登録薬局でも抗原定性検査を実施
- 保健所による施設クラスタ対応を強化

今後の対策のターゲット(感染の場)

1.18公表事例



【家庭】

家庭以外での感染が家庭に**持ち込まれる**ことで、
また、さらに家庭から感染が**持ち出される**ことで
感染規模が縮小せず、
全体として高止まりが続いていると推測

家庭に持ち込ませない
家庭から持ち出さない取組の徹底が必要

【職場】

テレワークの推進を今一度

【学校】

基本的な感染対策の再度の徹底

【経路不明】

人流抑制・接触機会の削減

家庭に持ち込まない・持ち出さない取組

家庭に持ち込まない

全体の接触機会を減らす

外出削減

テレワークの推進

家庭から持ち出さない

症状がある人(検査等は受けていない)が家庭にいる場合

◆**症状(発熱, 咽頭痛, 咳等の風邪症状)がある本人**

出勤・登校・登園等をしない

外出を控え, すぐに医療機関を受診

◆**症状がない人**

外出をできるだけ少なく, 短く

症状が現れればすぐに医療機関を受診



検査の結果陽性者となった場合は,
その他の家族については
濃厚接触者としての対応を

まん延防止等重点措置の継続による再拡大防止
(飲食のシーンでの感染再拡大防止・人流抑制・接触機会削減)

+

若年層・高齢者における感染拡大防止対策の実施

+

これまでの基本的な感染対策の再度の徹底

- ◆マスク (効果が期待できるものを正しく着用)
- ◆手洗い
- ◆換気
- ◆有症状時の医療機関受診

4. 重症化予防の取組

医療が必要な人に確実に医療を提供するために(体制全体像)

自宅療養者(療養者全体の92%)18,856人(2/1時点)

重症化リスクが低い自宅療養者
(例 60歳未満:自宅療養者の88%
16,590人)(2/1時点)

重症化リスクが比較的高い自宅療養者
(例 60歳以上:自宅療養者の12%
2,226人)(2/1時点)

施設療養者
(療養者全体の2.6%)
537人
(2/1時点)

宿泊療養者
(療養者全体の3.6%)
730人
(2/1時点)

入院患者
(療養者全体の2.1%)
425人
(2/1時点)

検査受検者(直近平均値から算出)
医療機関 約3,400人/日
行政検査・PCRセンター 約6,600人/日

症状悪化等により医療が必要になった場合には
確実に医療につなげる

診療・検査医療機関による初診・再診

薬局による薬剤配送

陽性者外来

新型コロナ経口治療薬相談ダイヤル

保健所業務の重点化による
ハイリスク層への対応強化

オンライン診療センター

輸液センター

フォローアップセンターによる健康観察

保健所による健康観察

幅広く体制を整備

- ①ハイリスク患者に絞った入院対応
- ②初期治療の充実
- ③自宅療養者へのフォローアップ体制

①ハイリスク患者に絞った入院対応

自宅療養者(療養者全体の92%)18,856人(2/1時点)

重症化リスクが低い自宅療養者
(例 60歳未満:自宅療養者の88%
16,590人)(2/1時点)

重症化リスクが比較的高い自宅療養者
(例 60歳以上:自宅療養者の12%
2,226人)(2/1時点)

施設療養者
(療養者全体の2.6%)
537人
(2/1時点)

宿泊療養者
(療養者全体の3.6%)
730人
(2/1時点)

入院患者
(療養者全体の2.1%)
425人
(2/1時点)

症状悪化等により医療が必要になった場合には
確実に医療につなげる

医療機関での検査陽性者
→全体の7割程度に該当

診療・検査医療機関による初診・再診

検査受検医療機関 約3,400人/日
PCRセンター 約6,600人/日

保健所業務の重点化による
ハイリスク層への対応強化

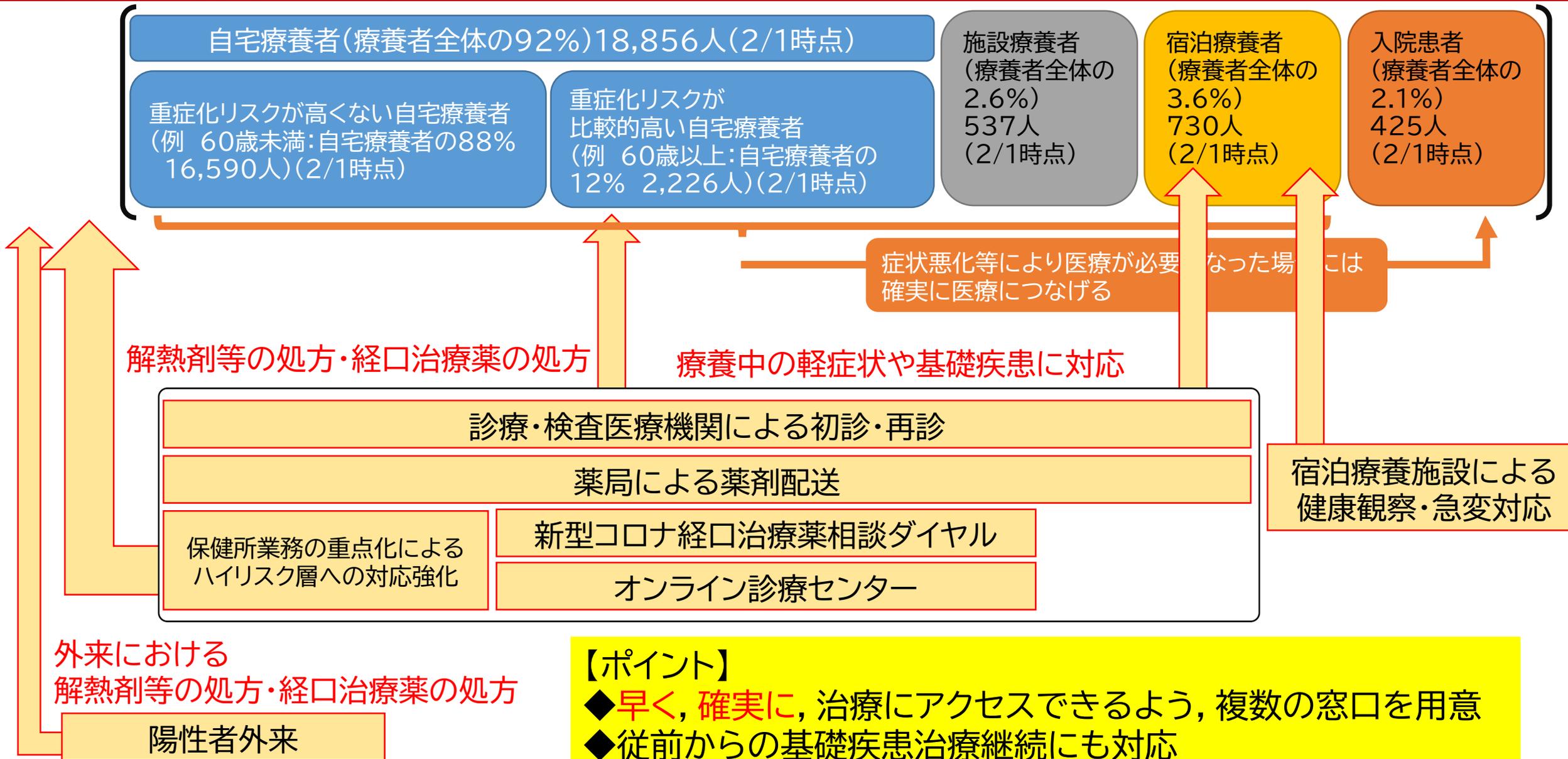
【ポイント】

陽性判明当初から症状が悪化している患者や、重症化リスクが極めて高い患者(高齢, 基礎疾患あり 等)を優先的に、スムーズに入院対応とすることを旨とする

◆診療・検査医療機関による入院要否の判断

◆保健所業務を重点化することによりハイリスク患者により早く対応

②初期治療の充実



③ 自宅療養者へのフォローアップ体制

自宅療養者(療養者全体の92%)18,856人(2/1時点)

重症化リスクが低い自宅療養者
(例 60歳未満:自宅療養者の88%
16,590人)(2/1時点)

重症化リスクが比較的高い自宅療養者
(例 60歳以上:自宅療養者の12%
2,226人)(2/1時点)

施設療養者
(療養者全体の2.6%)
537人
(2/1時点)

宿泊療養者
(療養者全体の3.6%)
730人
(2/1時点)

入院患者
(療養者全体の2.1%)
425人
(2/1時点)

症状悪化等により医療が必要になった場合には
確実に医療につなげる

療養中の症状悪化への対応
精神的不安へのフォロー

診療・検査医療機関による初診・再診

薬局による薬剤配送

保健所業務の重点化による
ハイリスク層への対応強化

オンライン診療センター

フォローアップセンターによる健康観察

保健所による健康観察

輸液センター

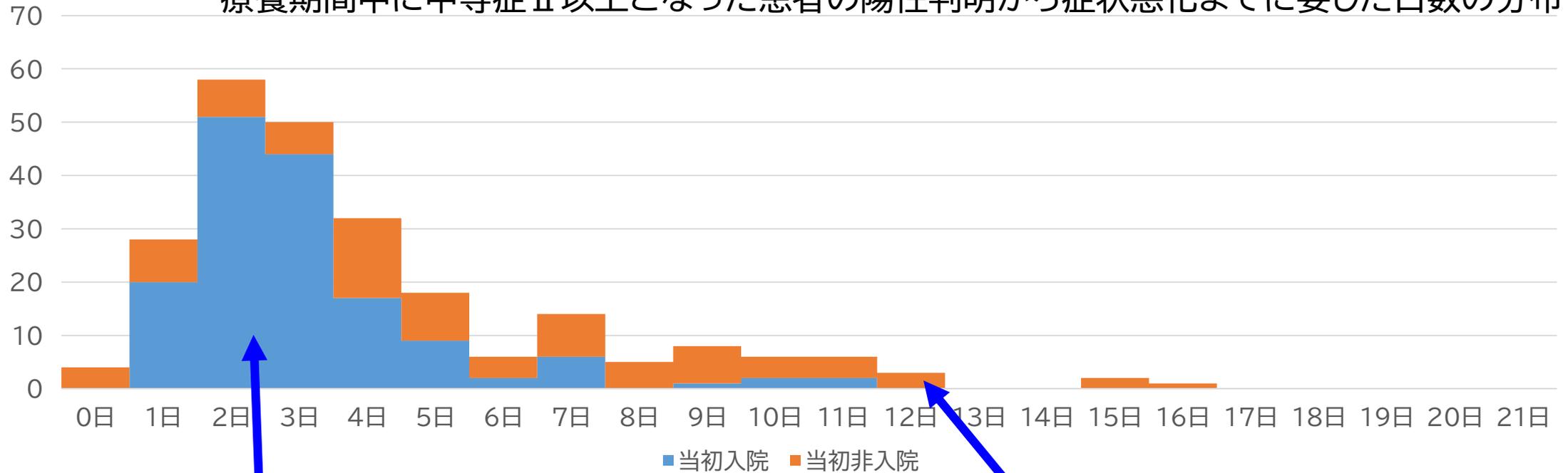
入院までの
ワンクッションとして機能
(過去実績では、入院回避
にもつながっている)

【ポイント】

◆複数の窓口を用意することで、必要な時には確実に医療につなぐ

医療が必要な人に確実に医療を提供するために

療養期間中に中等症Ⅱ以上となった患者の陽性判明から症状悪化までに要した日数の分布



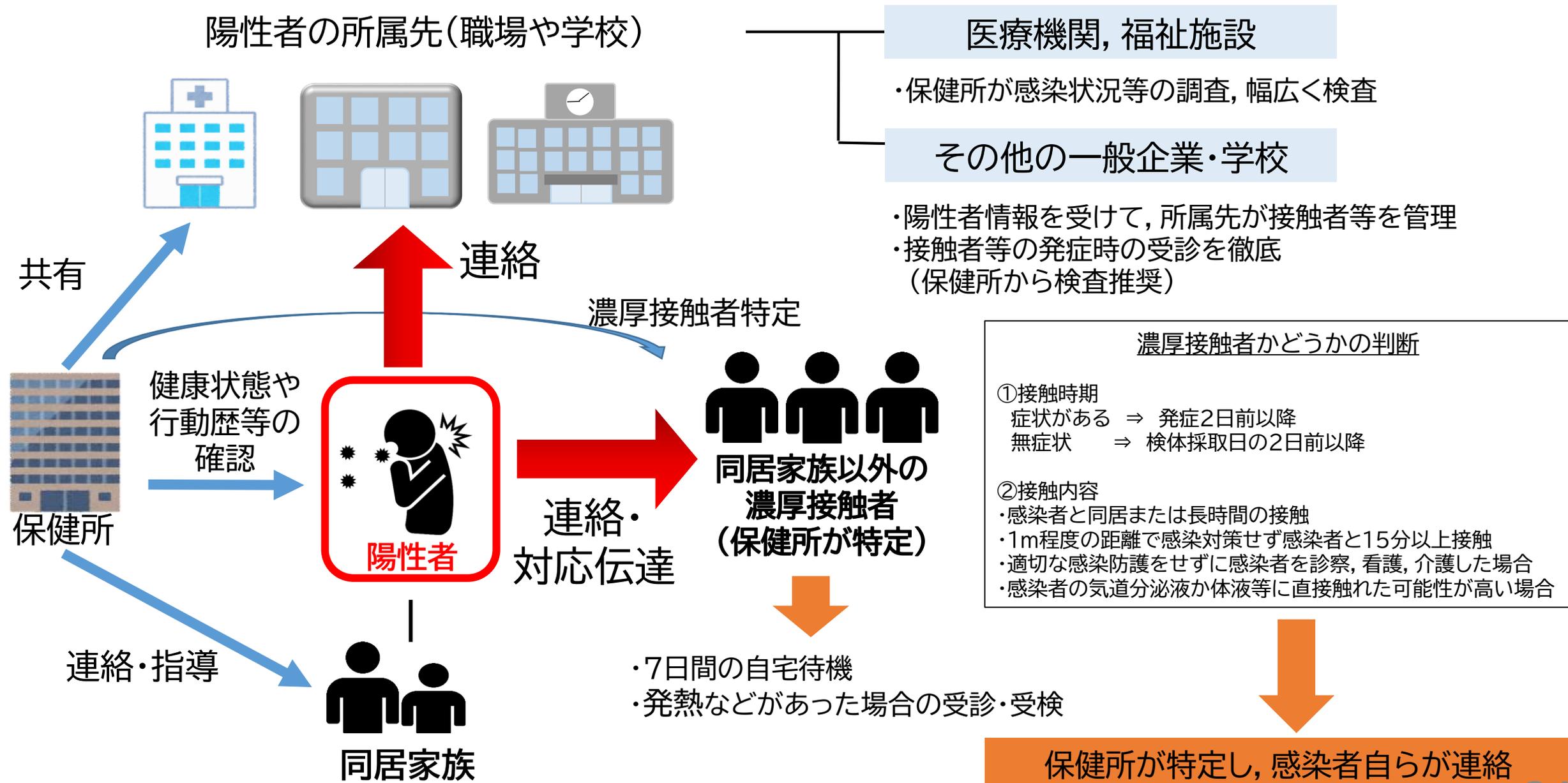
療養開始当初から入院対応とされた患者から
 症状悪化例が確認されている
 ⇒初期の入院要否の判断が有効に機能している

療養開始当初は入院対応でない患者も確実に
 医療につなげられている

R3.12.22~R4.1.29公表患者のR4.1.29までのステータスを反映して作成(最も重篤な状態等を踏まえ集計。デルタ株の患者を含む)
 中等症Ⅱ以上とは、中等症Ⅱ、重症、死亡を指す。

**確実な医療提供が継続できている。
 保健所業務の重点化等をはじめとした取組によりこの状況を堅持する。**

保健所業務の重点化によるハイリスク患者への対応強化



濃厚接触者の増加への対応


広島県

-  閲覧補助
-  検索
-  Language
-  防災情報
-  くらし・教育
・環境・文化
-  健康・福祉
・子育て
-  防災・安全
-  しごと・産業
・観光
-  まちづくり
・国際交流
-  県政情報

トップページ > [広島県感染症・疾病管理センター（ひろしまCDC）](#) > 新型コロナウイルス感染症患者との濃厚接触者の方へ

広島県感染症・疾病管理センター（ひろしまCDC）

新型コロナウイルス感染症患者との濃厚接触者の方へ

印刷用ページを表示する 掲載日：2022年1月28日

本県においては、オミクロン株の感染急拡大に伴い、保健所業務がひっ迫する状況となっており、保健所による積極的疫学調査を重点化しています。

そのため、保健所による行政検査は、当面の間、実施しないこととしています（同居者、医療機関及び社会福祉施設など、保健所が対応する場合を除く）ので、濃厚接触者の方には、患者本人等から連絡をさせていただきようをお願いしております。

濃厚接触者とは

患者の感染可能期間（発症2日前（無症状者の場合は、陽性確定に係る検体採取日の2日前）から退院又は療養解除の基準を満たすまでの期間）のうち当該感染者が入院、宿泊療養又は自宅療養を開始するまでの期間における、次の範囲に該当する方を言います。

感染症発生動向

-  感染症週報
-  感染症月報
-  患者発生状況
-  病原微生物検出情報

医療機関向け情報

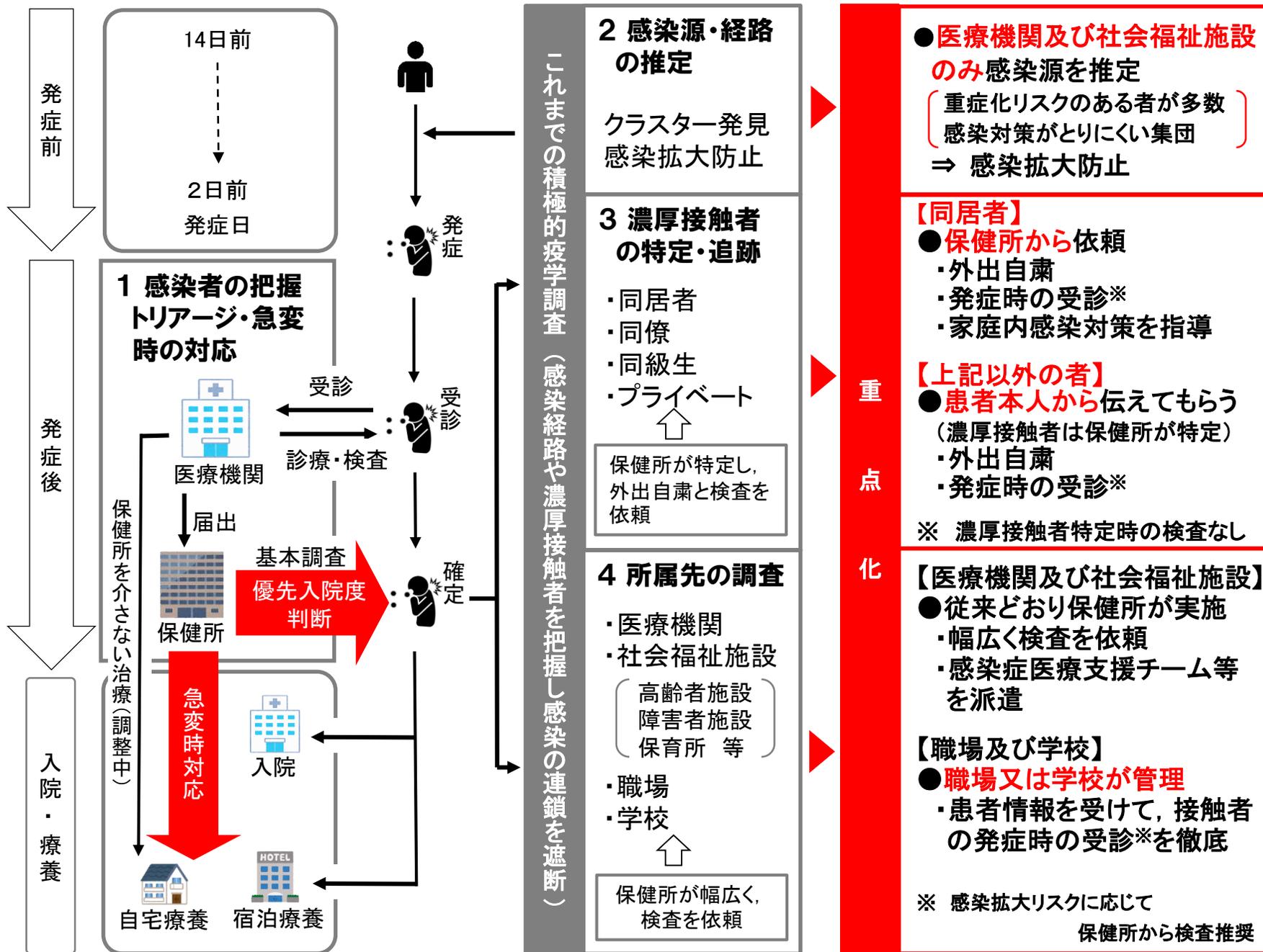
-  感染症法に基づく届出
-  医療機関向け情報
-  エイズ関係
-  結核関係
-  感染症発生動向調査



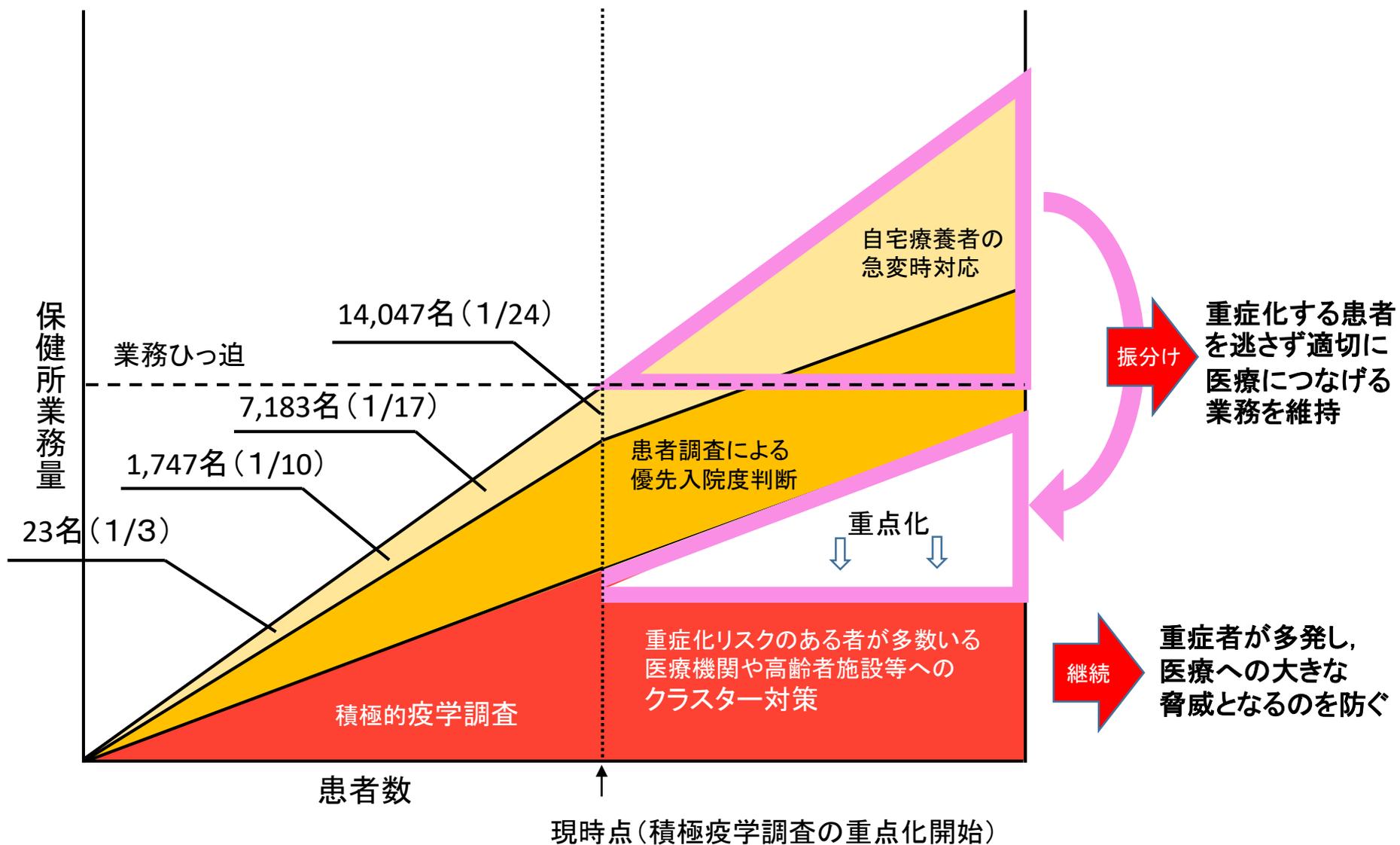
濃厚接触者に関する情報を最大限発信中

詳しくは県HPトップの「注目情報」のリンクからご確認ください

積極的疫学調査の重点化の概要



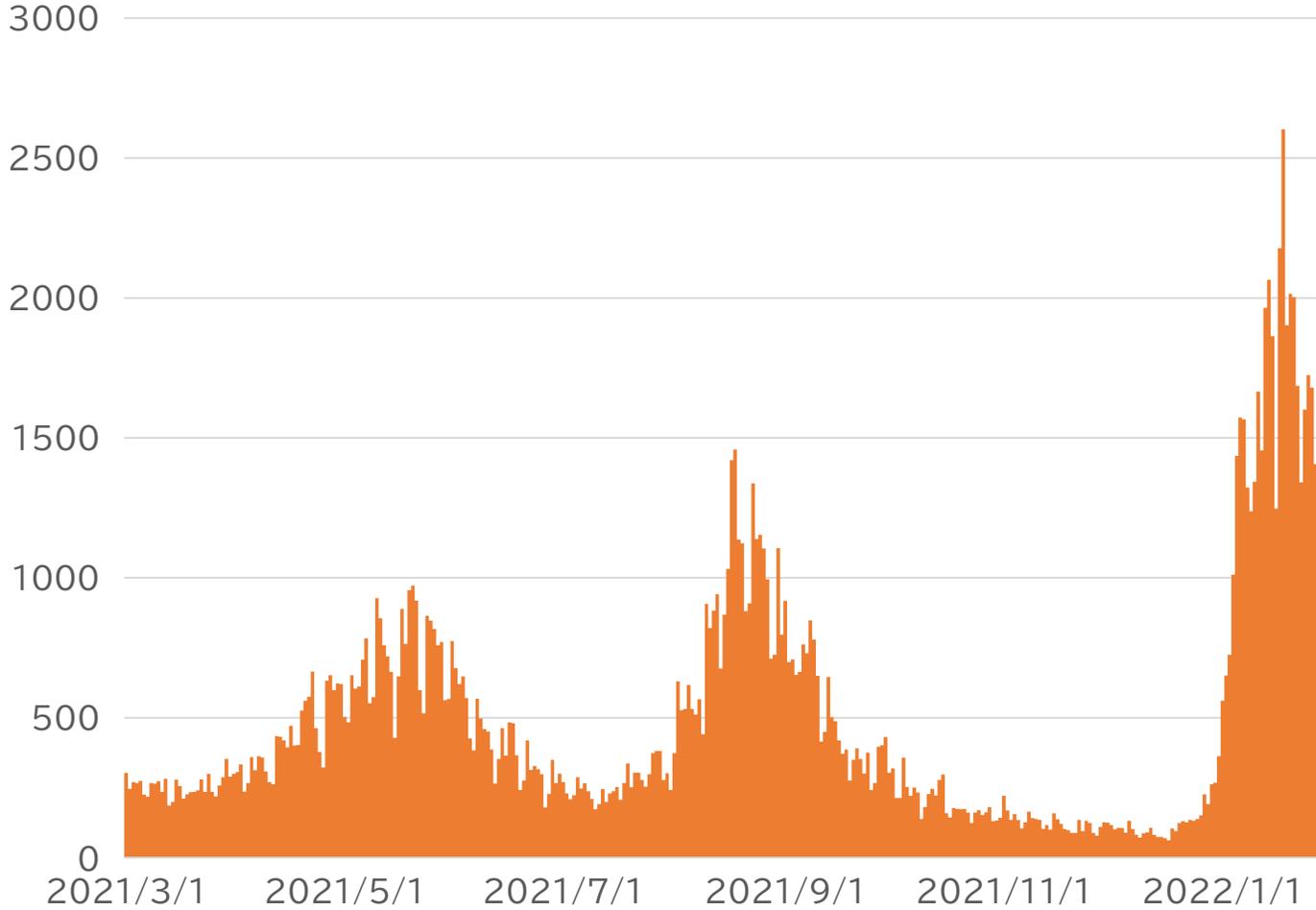
患者全員に関与する保健所業務の合理化による患者の重症化防止



積極的疫学調査の重点化により、保健所の関与が少なくなる部分(濃厚接触者対応, 所属先(職場, 学校)の調査)については、県民の皆様のご理解・ご協力をお願いします。

相談窓口の現状と今後の対応

相談件数の推移



過去最大の相談件数
→ 回線の増設

8 回線
(従来)

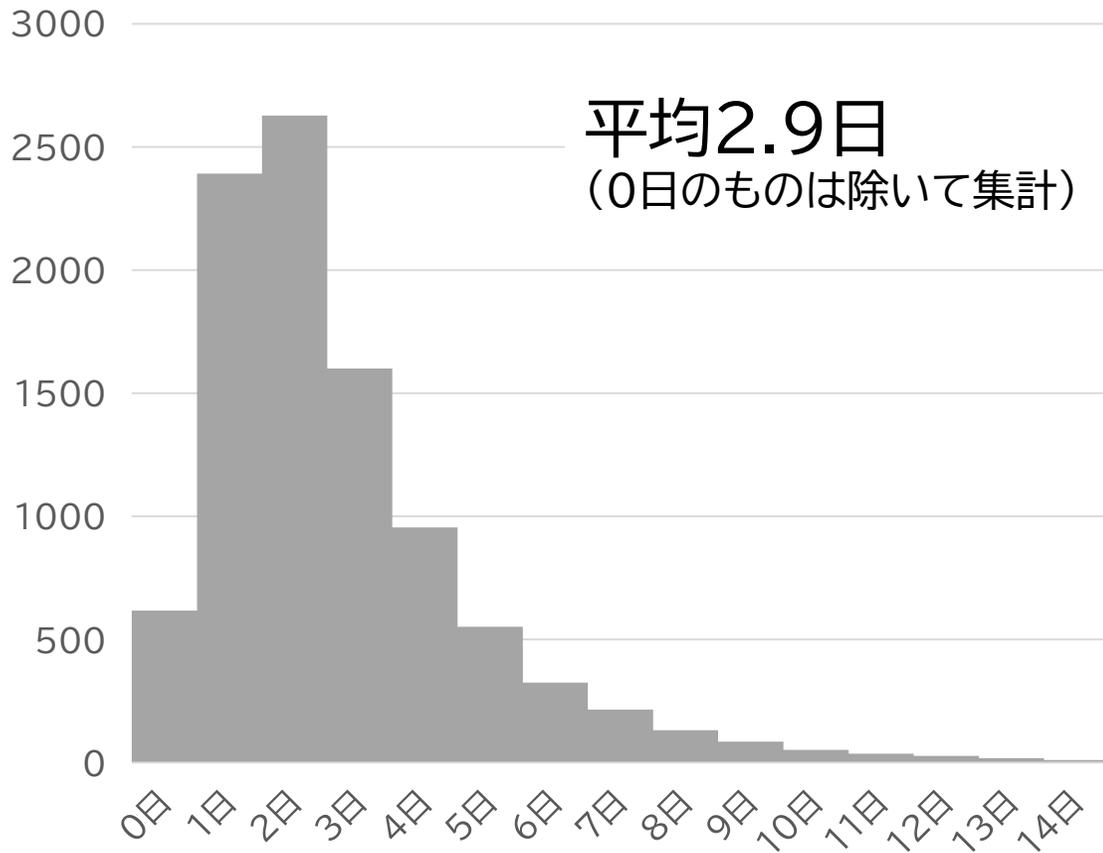
13 回線

20 回線

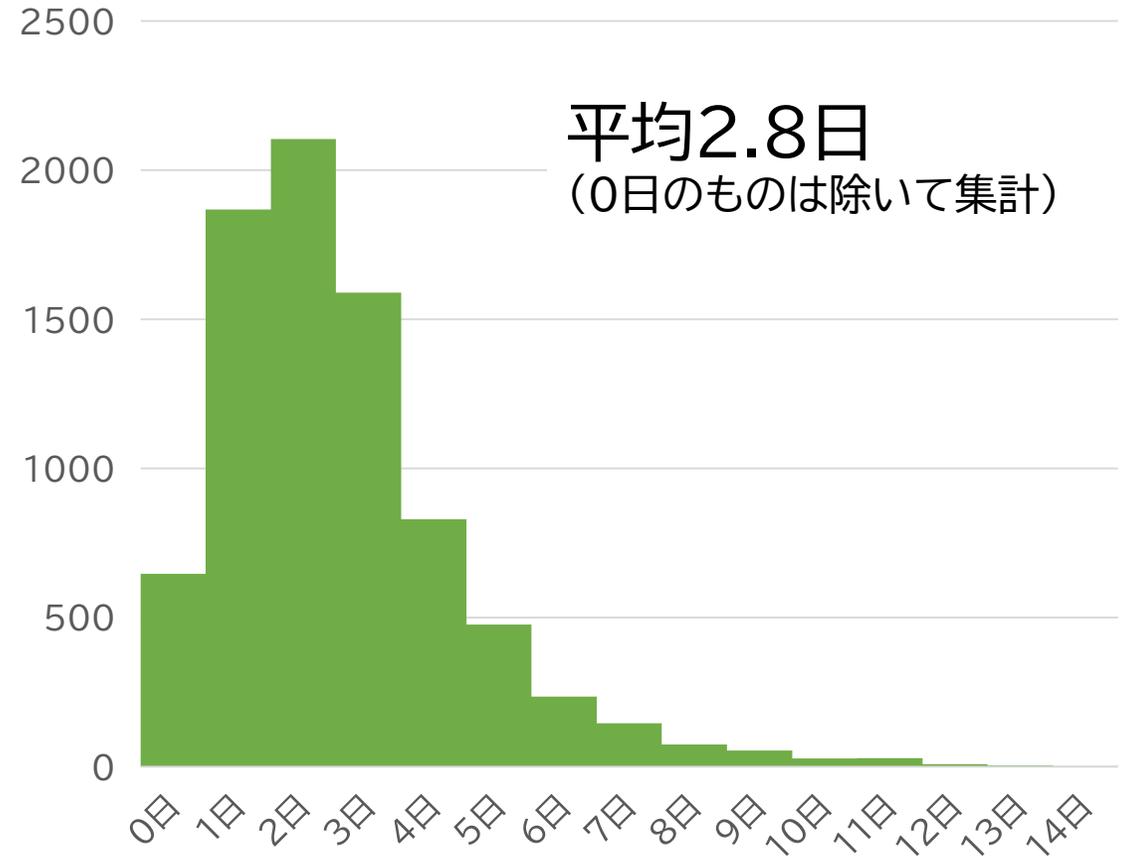
受診が必要な方がスムーズに受診できる状況を確保する

相談窓口の現状と今後の対応

発症から判明までの日数
(第5波事例のうち9,646例)



発症から判明までの日数
(1/27~2/2公表事例のうち8,099例)



直近では, 第5波と比較して発見が遅延しているということはない

検査の現状と今後の対応

OPCRセンターの予約枠の拡大

1,890 ⇒ **3,400件/日** (オミクロン株拡大を踏まえ, 12月31日以降段階的に拡大)

・検査会場の増設

	開設時間	開設日	予約枠
廿日市市役所駐車場	11:00~15:00	12月31日~	+220
尾道市役所駐車場	11:00~15:00	1月 7日~	+220
呉市役所駐車場	11:00~15:00	1月 7日~	+220
広島県庁	11:00~15:00	1月21日~	+560

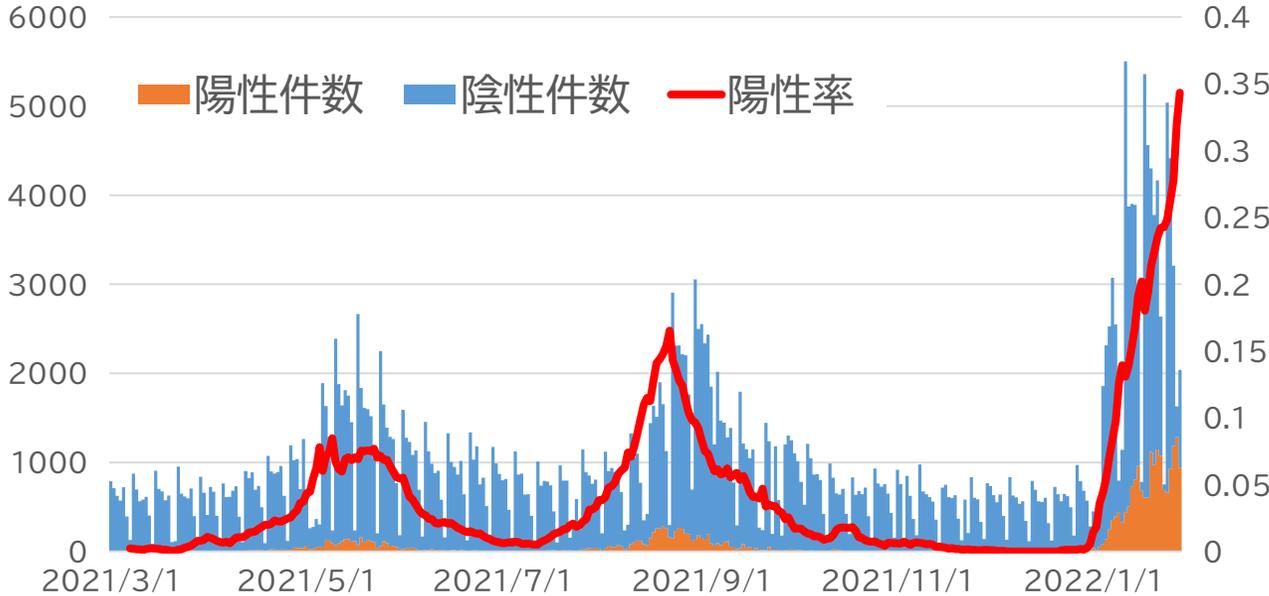
・運営時間の拡充

	開設時間		予約枠
	変更前	変更後	
観音マリーナ駐車場	11:00~15:00	10:00~15:00	+100
東広島(2/1~広島大学に移転)	11:00~15:00	11:00~16:00	+100
旧福山港フェリーターミナル駐車場	11:00~15:00	10:00~16:00	+100

検査の現状と今後の対応

○医療機関における抗原定性検査活用による検査迅速化

医療機関の検査件数と陽性率



市中感染が進行している現状においては

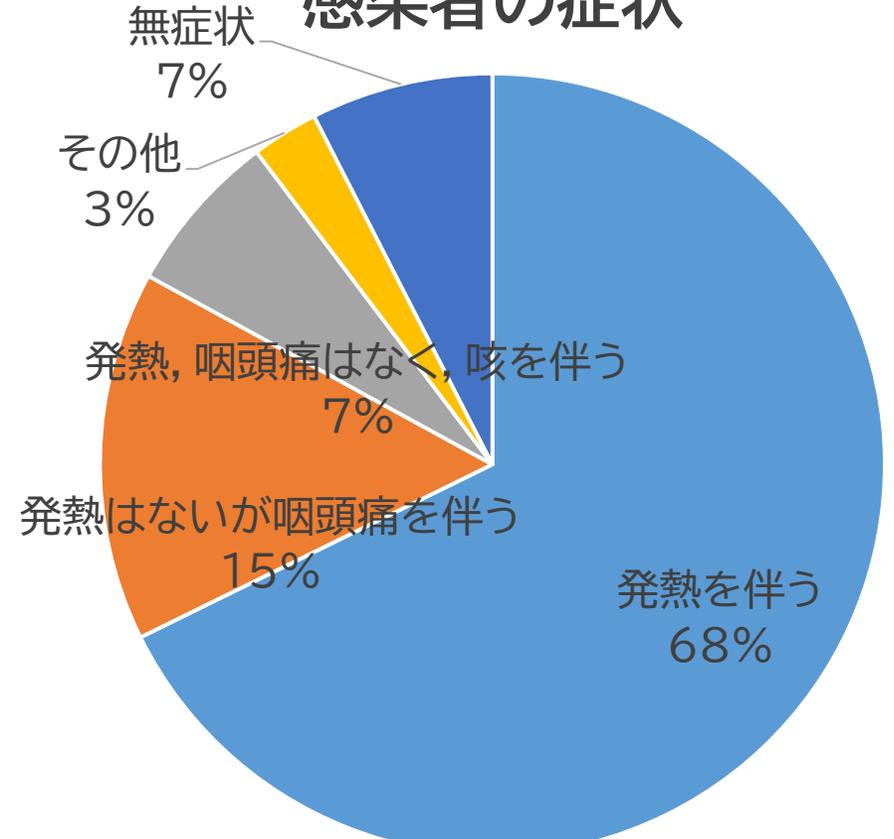
有症状者の陽性率が高い

医療機関では、有症状者において迅速に検査結果が得られる

抗原定性検査を活用する

※医療機関においても必要に応じてPCR検査を実施

感染者の症状



「発熱・咽頭痛・咳」に要注意

1/11, 1/15, 1/18の公表事例のうち、疫学調査情報のデータ化が可能だったものを元に整理(症状は疫学調査情報に基づくもの)

5. 県民の皆様へのお願い

県民の皆様へのお願い

オミクロン株の感染力の強さと感染スピードから
従来の対策の“徹底”をお願いします

◆基本的感染対策の強化

- ・マスクなしで会話はしない
- ・鼻を覆い, 隙間のない正しいマスク着用（できるだけ不織布マスク使用）
- ・マスクをしていても1m以上距離は空ける
- ・手洗い, うがい, 手指消毒
- ・こまめな換気

県民の皆様へのお願い

今の主な感染経路は家庭です

家庭へ持ち込まない

◆全体の接触を削減

- ・外出の半減～日常で必要な買い物を含めて、時間か機会を半分にしてください
- ・テレワークの推進, 時差出勤

家庭から持ち出さない

◆発熱, 咽頭痛, 咳等の風邪症状がでたら,

■本人：出勤/登校をしない

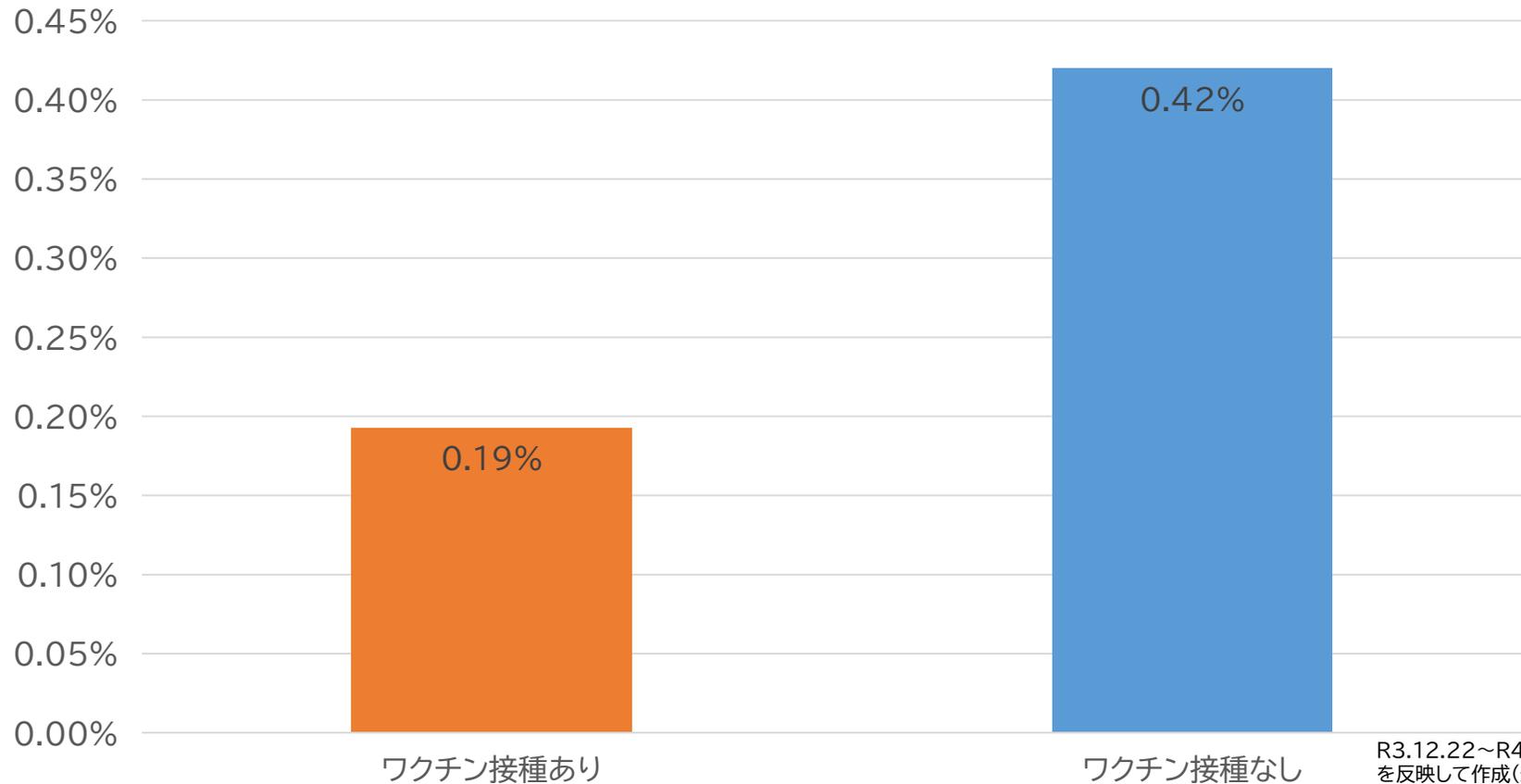
すぐに医療機関を受診し検査

■同居家族：外出をできるだけ少なく

症状が出たらすぐに医療機関を受診し検査

ワクチン接種の効果

今回の感染拡大(R3.12.22~R4.1.29)における 重症化率(10代以上)の比較



R3.12.22~R4.1.29公表患者のR4.1.29時点のステータスを反映して作成(最も重篤な状態等を踏まえ集計。デルタ株の患者を含む。年代不明例は除外して集計。)

ワクチン接種による重症化を予防する効果(入院予防効果)が示唆されている
積極的な接種を

ワクチン3回目接種を

○ 入院予防効果

3回目接種(追加接種)により回復する報告

(発症予防効果も一時的に回復する可能性が示唆)

○ 交接種

1, 2回目と3回目のワクチンが異なっても, 効果が得られる。

順番が来た方は, 3回目接種をご検討ください。
市町や県の大規模接種会場も活用してください。